

特集／広報あさひまち発行600号記念「朝日町の元気印」
町政スポット／出前知事室 「海の幸を育む山に緑を」植樹会
町の財政状況について ほか
カメラさんぽ／第42回朝日町芸術文化祭
まちの話題／彫刻家西雅秋氏個展オープニングイベント
りんごの樹オーナー制度収穫祈願祭 ほか

パパばあちゃん ありがとう！

収穫したばかりの里芋で芋煮会
(11月2日；旧大谷小学校跡地)

広報 あさひまち

2006年11月号
No. 600 記念特大号

朝日町はごはんを食べよう運動を推進します。

雄大な自然と

人情味溢れる

この町だから生まれ 今もなお育まれている

朝日町の元気



昭和29年11月1日、当時の宮宿町、西五百川村、大谷村の1町2村が合併して誕生した朝日町。「町報あさひ」として第1号の行政広報紙が発行されたのは同年の11月25日。その後、節目となる100号（昭和40年3月）、200号（昭和48年7月）、300号（昭和56年11月）、400号（平成2年3月）、500号（平成10年7月）、そして迎えた600号（平成18年11月）。誌名も現在のような「広報あさひまち」に替わり、長年続いたB5版からA4版の紙面に替わってから数えても、ちょうど200号目に当たります。

当時の出来事などや町の政策、町民の声などをタイムリーに掲載してきた広報紙。振り返ってみると、その時々を元気いっぱいに活躍している町民の笑顔が、広報紙の大半を占めてきたような感じがします。600号という記念すべき節目であるとともに、あくまで通過点にすぎない「広報あさひまち」。そんなことから、今現在この町で元気いっぱいに輝いている人たちを「朝日町の元気印」として紹介することで、その「元気の零」を町民の方にもお伝えできれば幸いです。

広報委員みんなで執筆した今回の特集。こんな元気な人たちを育んでいる朝日町のすばらしさを、これを機に再発見していただければ幸いです。

そ
ん
な

元
気

の
零

を

朝日町広報委員会

やよしひしなすみがな

フットサルという競技をみなさんご存知でしょうか。屋内でもできる5人制のサッカーとして、今若者を中心に全国的に競技人口が増えているスポーツです。

そんな状況の中、旧送橋小学校を拠点に元気に活動している朝日町のフットサルチームがあります。その名もモンデミロF.C.。チーム結成からわずか1年半で、有名大会優勝を果たした実力派のこのチーム。今後のさらなる飛躍を目指し、波に乗っている今、その勢いの秘訣を伺いました。

プロフィール

- ▼正式名称 MONDEMIRO F. C
 - (モンデミロフットサルクラブ)
 - ▼代表 佐藤高章さん（前田沢）
 - ▼平成17年4月チーム結成
 - ▼所属15人



※フットサル

屋内で行う5人制のサッカー。フィールドの広さは通常のサッカーの約3分の1。大会によりルールの詳細は異なるが、公式ルールとしては前半20分、後半20分、メンバー交代は自由で得点を競う。サッカーボールと比較して一回り小さく重いボールを使用。

モ ン デ ミ ロ フ ットサル クラブ **MONDEMIRO F C**

初めは「軽く運動できればいいか?」程度の気持ちで始めたフットサル。しかし、実際やってみると、狭いコートでありながら全力でプレーし

ムを作ろう!」と意気投合し
町内の同級生を中心に誘つて
みたところ、後輩も含め15人
が集結。その後、夜間や冬場
でも気軽に活動ができるフツ
トサルに着目し、身近な活動
場所を求めてたどり着いたの
が旧送橋小学校。現在、毎週
木曜日に基本練習を中心にして
、ミニゲームや他チームとの
練習試合などを行っていま
す。

「朝の消防練習が終わつてから、友人3〜4人でたゞサッカーボールを蹴つて遊んだのがきつかけです」と語るのは代表の佐藤高章さん。それから「友人同士でサッカーチー

のサッカーのバイオニア的存在になつてやる！」という気

学生のとき以来の熱い思いで…

なおかつボールは重く、蹴るスピードも通常のサッカーと同じで、撃げんかなどケガも多いスポーツであるということに気付いたそうです。そんなことから、一時は練習を休みがちになる人もいましたが、次第に「うまくなりたい！」大会に出てみたいい！」という目標ができて、バラバラのチームもまとまりと活気が出るようになつてきましたと言います。

サッカー文化のない朝日町で…

ゼロから始めたフットサル

特集●朝日町の元気印

元気の雰をちょっとぴりおすそ分け

担当広報委員 菅井千代太 諏訪紀代 佐久間 淳



合のもと、昨年の冬は地味なパスやトップ練習をひたむきに続けたと言います。そして今回出場した第6回牛角カップフットサル大会（9月24日天童市にて開催）。それは昨年1勝しかできなかつたあの大会であり、なおかつ同じクラス（スーパーバービギナーズクラス）での出場でしたが、なんと8戦全勝で優勝を達成しました。

まさに今波に乗っているモノデミロFC。その勢いの秘訣を佐藤さんは語ってくれました。「秘訣？…それはフットサルというスポーツにあると思います。フットサルは体育馆でも屋外でもボールさえあれば気軽にできることに加え、一人の力ではなく仲間と助け合いながらプレーできる

んです。コートの中にいるといつもチャンスとピンチの連続で、自分のミスを仲間が取り返したり、他の人のミスを自分も助けたりと、個人競技にはない楽しさがあるんですよ」。佐藤さん自身、部活動は個人競技に所属していたため、この魅力を人一倍実感しているそうです。

また、メンバーの一人土屋昌三さん（下芦沢）もこう語ります。「毎週定期的に友人と集まって体を動かすことそのものが喜びですね。このチームに入るまでは仕事と家の往復で毎日何の刺激もなく、朝日町に住んでいたながら、中学校時代の友人とも疎遠になっていました。しかし、チームに入つてからは、週に一度仲間と一緒にボールを蹴ることで学生のとき以来の熱い気持ちを思い出し、毎日がとても充実しています」。毎週の練習のか、定期的に親睦会も行い、気軽に仲間と語り合うことができる環境に喜びを実感しているとのことです。

更に、「もちろん最初はフットサル専用のゴルなどありませんでしたから」と語るのは布施勝英さん（新宿）。板金職人である腕前を生かし、ゴールは木材と果樹用の防鳥ネットを使ってみんなで組み立てたものだそうです。



お手製のゴール前で勢揃いしたメンバー

もう一度みんなと優勝の喜びを分かち合いたい

最後に今大会での結果をふまえ、今後の活動について聞いてみると「まさにゼロから始めたチーム。正直、素人の集まりが結成二年足らずで優勝できたのは自分たち自身も快挙だと思います。しかしフットサル 자체がまだ歴史の浅いスポーツです。そのため、練習量に応じて成績もさらに伸

びていくのではないかと思っています」と語ってくれました。

今回の優勝によって、来年の春には必然的に1クラス上のチームとの試合が待っています。「必ず来年の春にもう一度みんなと優勝の喜びを分かち合いたい」という目標を胸に再びパス練習に励むチー

どんなことを始めるときもみんな最初は初心者。結果を恐れず、どんなことにも前向きに取り組むことの大切さ。

みなさんもスポーツのみならず、仕事・学校生活など日常生活の中の色々な場面で「新しい物事」に「挑戦」する機会があると思います。今まで踏み出せなかつた最初の一歩を、このチームのように思って踏み出してみませんか。新しい世界が拓けてくるかもしれません。

伊藤さんは米国生まれ米国育ち。でも心は誰よりも日本人です。そして、みなさんと同じくらい朝日町を愛しています。

世の中を客観的に、理論的に見つめる伊藤さんの発言や行動は、周りを動かす力があります。そしてその言葉の端々からは、この朝日町の自然を満喫し、自然の中で暮らすことの楽しさ、素晴らしさが伝わってきます。

今年8月に行われた西村山支部消防操法大会での活躍の裏に隠された練習の日々、そしてこの町に対する思いを、伊藤さんはきれいな日本語で語ってくれました。

1966年米国カリフォルニア州生まれ
コロラド州の大学へ進学し、平成元年
姉妹都市である山形県へ
県庁企画調整課で国際交流業務を担当
その後高等教育分野にも携わり、開学時から東北芸術工科大学に勤務
平成13年から奥さまと朝日町送橋在住



伊藤壯志さん

たけ
し

細かいところまで練習に励みました。初めは涼しかった今年も夏も暑くなり、大会前一週間、そして大会当日は熱い日差しが照りつける中での操法となりました。成績は、小型ポンプの部で準優勝、朝日町の総合準優勝にも貢献しました。

消防団に入団したきっかけは、地元の予備消防隊に入らないかと誘われたことでした。消防団は、よくお酒を

を抱えるメンバーが多い中、誰よりも早く来てウォーミングアップをしていました。そこで、ケガの歩数、ホースの持ち方、走る時の

伊藤さんは、消防団だけではなく地域の活動にも積極的に参加しています。話を聞いてみると、多くの人が感じていると、多くの人が感じてしまう、「地域活動への『負担』や『わざわざしさ』」という重さがほとんど感じられません。

「今の若者たちは都会に憧れ、生まれ育った町をあとにする傾向がありますが、それは田舎の良さに気付いていないと同時に、都会の大変さがわからないから。地域活動に参加することによって、地域

地域と自然に溶け込んで…

地域を元気づける消防団での活動

今回、西村山支部消防操法大会で指揮者を務めた伊藤壯志さん。

大会までの一ヶ月半、朝4時半からの早朝練習は、日曜を除く毎日、操法要員一人ひとりに指導者がついて、徹底的に行われました。早朝から激しい動きをするので、ケガ

がアツアップをしていました。そこで、ホースの持ち方、走る時の歩数、ホースの伸び方など、細かいところまで練習に励みました。初めは涼しかった今年も夏も暑くなり、大会前一週間、そして大会当日は熱い日差しが照りつける中での操法となりました。成績は、小型ポンプの部で準優勝、朝日町の総合準優勝にも貢献しました。

伊藤さんは、消防団だけではなく地域の活動にも積極的に参加しています。話を聞いてみると、多くの人が感じていると、多くの人が感じてしまう、「地域活動への『負担』や『わざわざしさ』」という重さがほとんど感じられません。

特集○朝日町の元気印

元気の雪をちょっとぴりおすそ分け



西村山支部消防操法大会に出場した第1分団第4部（8月6日／寒河江市）

元気の源は、ここ朝日町に住んでいること!!

「元気の源は?」と尋ねると、「飯が食べられて住む場所がある」そして「ここでしかできないことを新鮮に受け止めることができれば元気でいられる」という答えが返っていました。

「吹雪でも紅葉でも、蛙の声でも、ここでは何気ないと思っているかもしれないが、そこに都会では味わえないぜ

少ない安心感がある。これ

いたくな部分がある。犯罪は

少ない安心感がある。これ

こそ元気の源。おいしい、安

い、安心な食べ物を作れるの

はこの土地だからこそ。自分

で食べるものは自分で作りた

いですから」と伊藤さんは、

休日によく畑に行き、家族で

食べる分のお米や野菜を作っ

ています。

自分の時間を大切にできる

穏やかなこの場所が、伊藤さんの日々の活力となっている

ようです。

朝日町だからできること

と。地域とふれあうことの樂

しさ、大きさ、そしてこの町

のすばらしさを、熱く語つて

くれた伊藤さん。

みなさんも伊藤さんにお会

いし、改めてこの町のすばらしさを感じてみたくなったのではないか。どうぞ

担当広報委員 清野千春 長岡昭博 長岡季代

を守るだけでなく、そこに住む人々の交流や触れ合いが生まれます。それが、ここで生きていくのに必要なことであります。それでも、緊急時にポンプ車（積載車）を車庫から出せなかつたら大変。だから自分が当番の時は、仕事から帰つてくるのが夜中でもポンプ庫の除雪をします」と責任を全うしています。でもこれが責任ではなく、伊藤さんにとっては当然のことなのです。

伊藤さんには理想とする町があります。それは、芸術家が集う町です。自然が破壊されず、アーティストが集まり、自然の中で自由な発想で活動している洒落たイメージ。「そんな芸術家のいる町で小さくともイベントができるはずつ潤う。一つひとつにこだわりを持って創り上げなければ、その理想の町も夢ではない。誰しも住んでみたい理想の場所はあるはず。その住んでみたいと言われる側にならいいし、この町でそれが必ずできる」と考えています。

朝日町に元気がないとは思っていないし、悲観的な見方もしていません。朝日町のブランドイメージをどうやって築き上げていくかだと思います。朝日町にある豊かな自然をどう生かすか。朝日町に元気があるとは思っています。その熱意が、今後の町の可能性を引き出す刺激とも、こうした自分の意志を持っています。それでも、こうした自分の意も、こうした自分の意志を持つています。それでも、こうした自分の意も、こうした自分の意志を持つています。その熱意が、今後の町の可能性を引き出す刺激となりつてくれることに違ひありません。



自宅から見える伊藤さんお気に入りの風景



「神が落とした扇の棚田」といわれる楢平の棚田。日本の棚田百選にも選ばれた美しいこの棚田を心から愛し、守り、さらに全国へアピールすべく頑張っているお母さんたちの紹介です。

平成16年9月から棚田に関するイベント時に、地元の食材を利用し昼食を用意するなど棚田保全活動に協力。メンバーは13人。

地域が一つになって棚田を守ろうとするこれらの活動が認められ今年5月、楢平棚田保全活動推進委員会（志藤勝幸会長）は農林水産省主催の「第1回美の里づくりコンクール」で全国表彰を受けている。

楽しみながら棚田をPR

棚田ママの会

会長 伊藤しづ子さん

スタートは手づくりおにぎりから

平成16年9月、棚田と地域の将来を考えるワークショップが開催されました。実行委員として頑張っている父ちゃんたちを手伝えることは何かないかという思いから、参加者へ昼食として棚田米で作つたおにぎりといもこ汁を提供しました。このことがきっかけとなり、同年12月に行われた棚田フォーラムの席上、棚

会長の伊藤しづ子さん（能中）。ちなみに、棚田ママの“ママ”は、“母ちゃん”と“飯”的二つの意味があります。

主な活動としては、棚田や周辺の景観を守る活動に関わる楢平棚田保全隊（町内外から60人）の年6回の作業や、約120名の参加者が集まる

田研究の第一人者早稲田大学名誉教授中嶋峰広先生から「棚田ママの会」と名付けていただき活動がスタート。この時も170人分ものおにぎりとん汁を作つて参加者に振る舞いました。

こんなに大人気の食事の用意は大変ではないかと尋ねてみると、「主婦歴長いながら、みんなすれば、なんてごどないんだ」と笑顔で語る



特集○朝日町の元気印

元気の雰をちょっとぴりおすそ分け

担当広報委員 清野剛昭 長岡由美 木村朋恵



「活動その新米を食べる」ということで、棚田ママの仕事で出かけたりや、夫や家族はこころよく送り出してくれます。



東京棚田フェスティバル

「全国の棚田を守る農家と棚田ファンの気軽な交流の場を…」を合い言葉に『東京棚田フェスティバル』が11月11日、東京都飯田橋にある大塚商会本社ビルで初めて開催されました。

全国から500人を超える棚田ファンが訪れた会場では、能中楳平耕作農家「棚田ママの会」のメンバーと棚田保全隊員合わせて9人が参加。朝日町の文化と味、そして楳平をPRしてきました。

ヒメサユリまつりで、おにぎりや、笹巻き、山菜汁を用意し多くの方に味わってもらいました。その他、棚田の視察等に訪れる団体等へも、依頼があれば協力しています。

先日、初めて農作業を体験しに来た人たちへ昼食を提供した時は、「すばらしい棚田の新米を食べること」ができた

ことに感激している。とてもおいしい！」と、笑顔で塩おにぎりを食べてくれました。11月11日には、東京で開催された「棚田フェスティバル」に参加。手づくりの笹巻き、お米、りんご等を出品してきました。メンバーや5人が参加し、直接楳平の棚田をPRしてきたところです。

棚田で作ったお米でおにぎりをつくり、訪れた人たちに振る舞うと、「ここで作られた米は冷めてもうまい！」と喜んで食べてもらいます。棚田で作ったお米でおにぎりをつくり、訪れた人たちに振る舞うと、「ここで作られた米は冷めてもうまい！」と喜んで食べてくれます。そんなうれしい一言が、活動の励みになっています。

定期的な集会はありませんが、イベントなどで召集がかかれば、農繁期の忙しい時期でも、喜んで集まります。活動の拠点となっている能中公民館に、自慢の一品を持ち寄るお茶飲み会には笑い声がたえません。この楽しいひとときがリフレッシュできる時間となっています。

生産者でもあるみなさんに、活動を通じて棚田米をどのようにしていきたいか尋ねたところからあふれ出てくるようです。棚田ママの会活動は、棚田に関わるイベントや訪問者へのあつたかいもてなしの心と、棚田を色々な土地の人々がめざしている思いがお話を

こう、「棚田米」のことは父ちゃんたちの仕事だから」と控えめに話してくれましたが、自分たちの作ったお米に誇りを持ち、美味しい米作りをめざしている思いがお話を聞いてもらうことで、少しでも父ちゃんたちの米づくりや地域づくりを応援したいという熱意をあらわしているようです。

人と土地からの恵みに感謝

岩崎 孝彦 久美子さん



家と畑を求めてたどり着いた朝日町

東京でマンションライフをしていたご夫妻は、休日になると富士山の麓河口湖まで足を運び、『農的生活俱楽部』（農業体験塾）で二年間農作物のノウハウを学びました。畑作りの楽しさは、やがて田舎に住んでみたいという気持ちに変わっていきました。会社に山形出身の人がいて以前から山形に興味を持っていたので、会社の定年とともに山形で生活する夢は大きく膨らみ、移住地を求めて小国・左沢と探し回って朝日町へとた

どり着きました。しかし、ここで生活するには雪国生活を体験してみないと分からぬと言われ、厳寒の山形に足を運ぶこと数回。純白の雪に二人は魅了されました。元建築設計士であった孝彦さんの、畑付きで環境の良い自分の家を造りたいという願いどおりに、緑に囲まれ太陽エネルギーを取り入れた、まさにエコの町に適った『我が家』は完成し、五年前の11月、二人の田舎暮らしが始まりました。

近年「田舎に暮らしたい」と希望する人が増えています。あるご夫婦が求めた田舎暮らし、5年前に朝日町の高田で実現しました。
朝日町で暮らす魅力とは一体何なのでしょうか!?

高田に入るのは大変ではありますでした。むしろ地区のみんなが気を使ってくれた

都会では考えられない近所づきあい

のか、ありがたいことによそから来た二人を受け入れる体制はできあがっていました。

孝彦さんは1934年埼玉生まれ
久美子さんは1939年東京生まれ
2001年11月、東京の杉並から朝日町に転居
犬の林檎郎（ラブラドール・雄）
と比内地鶏3羽とともに高田にて生活

ここには東京では考えられない近所付き合いがありました。しばらく留守をすると、「いづ帰ってきたな」と声をかけてくれる人、採りたての野菜をどつさりと玄関先に置いていってくれる人、「お茶一服していがねが」と気軽に誘ってくれる人。ここに来て特に感じたことは、みんな礼儀正しくあいさつが良いということ。玄関であいさつしても部屋に上がつて、またあらためて三つ指ついてあいさつされるのには驚いたそうです。よく耳にする『おせわさま』という言葉も、最初は「大してお世話もしないのに」など不思議でした。聞き慣れた今では、いつどんな時にでも使われる、なんと調法ない

特集●朝日町の元気印

元気の雰をちょっとぴりおすそ分け

担当広報委員 登坂ひかる 阿部安彦 日笠 紘



家の周りをハーブや野菜が取り囲んでいます

朝日町に来てから、とにかく病気をしなくなつたね。夜はぐっすりと眠れるし、風邪などしばらくひいたことがない。都会のサラリーマン体型だったお腹がすつきりしたよ」と喜ぶ孝彦さん。

久美子さんは朝食が終わると畑に出ます。現在家の回りに二反歩の畑を借りて、100種類以上の野菜やハーブを栽培しています。

孝彦さんは趣味や勉学に没頭する中、要請があると耕運機で畑を耕

さつ言葉なんだろうと感心しています。地区内の集まりにも頻繁に参加しています。葬儀の手伝いにも加わり、隣近所の助けの必要性を実感しました。お地蔵様の祭りには村社の前で車座になり、お母さんたちが作ってくれた重箱の料理をつつきながら酒を酌み交わす風習は、何とも言えない居心地の良さを感じたと言います。孝彦さんは、地区のみんなと月に一度公民館で俳句の会を行い、高田の自然と季節の移り変わりを句にして楽しんでいます。会員の一人は「俳

良い環境で自分らしく生活する

句の会に誘つてもらつて本当に良かった。一日中俳句を考えると、楽しくて元気がでてきますよ」と喜んでいます。町のカラオケクラブで自慢ののどを披露したり、NPO（特定非営利活動法人）エコミュージアム協会に所属し、各地を回つてスケッチした蔵の絵を機関紙に掲載したりと、趣味を通して行動範囲も広がり、飲み友だち?も増えたようです。

句の会に誘つてもらつて本当に良かった。一日中俳句を考えると、寂しさを感じていませんとかしてみんなで守つて行きたいものだね」と孝彦さんは話していました。



暖簾のように干されたこうりゃん

朝日町に来てから、とにかく病気をしなくなつたね。夜はぐっすりと眠れるし、風邪などしばらくひいたことがない。都会のサラリーマン体型だったお腹がすつきりしたよ」と喜ぶ孝彦さん。

久美子さんは朝食が終わると畑に出ます。現在家の回りに二反歩の畑を借りて、100種類以上の野菜やハーブを栽培しています。

孝彦さんは趣味や勉学に没頭する中、要請があると耕運機で畑を耕

したり力仕事に借り出されます。久美子さんの農園で採れた野菜は娘さん（東京在住）や知人へと送ったり、創遊館前で開いているサンに市に持つて行きます。みんなが喜んでくれると、努力した成果が幸せとして戻つてくると言います。家事は分業して助け合い、しかも、お互い干渉しない良い位置関係を保っているのも幸せいの要因のようです。

軒下に暖簾のよう干されたりびやこうりやんは、実をだんごや餅にし、茎は箸にほうきをするそうです。「やりたいこ

とがありすぎて、まずは畑をきちんと整理し、おいしい野菜を作つて、加工もしてみた。失敗もたくさんあるし管理も大変だけど、とにかく楽しいから。人の恵みと土地の恵みから支えられて、心が豊かになつて本当に幸せです」と微笑む久美子さんと、「今年は雪匂いにひと工夫してみよう」と考える孝彦さん。

久美子さんは朝食が終わると畑に出ます。現在家の回りに二反歩の畑を借りて、100種類以上の野菜やハーブを栽培しています。

孝彦さんは趣味や勉学に没頭する中、要請があると耕運機で畑を耕

笑顔あふれる世代間交流

運営スタッフの優しい気持ちが財産

みんなが参加して楽しめる行事を



『前田沢いきいきクラブ』発足のきっかけとなつたのは町の事業として平成13年に始まつた『いきいきディイサー・ビス(現在の元気クラブ)』。その年は「ただでごつつおなつていらんにえし、かしぇがんないがらよ!」と、足を運んでくれるお年寄りが少なかつたとか。そこで「ただのお茶飲み会ではないものを」と話し合いがなされ、翌年から『前田沢いきいきクラブ』と名称を変更。今の活動内容で本格的にスタートしました。

参加者みんなが手作りしたり作業したりして楽しめる行事や、お年寄りだけでなく子どもから大人まで幅広い区民が、楽しみながら参加できる内容となっています。

4月から12月まで11回ほど

の事業を行い、毎回40人くらいの参加があります。また、今年から『グループホームあさひ』のみなさんも参加し一緒に楽しんでいます。

します。毎年、記録を更新しております。今年は17・47メートルの海苔巻きを作りました。7月は子ども会と一緒に七夕作りをし、国道沿いや神社、公民館などに飾ります。8月始めにはかかし作りをして国道沿いに飾ります。10月は収穫祭。今年は上山市の全国かかし祭へ出展のため開催できましたが、例年『前田沢獅子舞会』の協力で餅つきを行っています。12月のクリスマス・忘年会では、神社の鐘の緒や門松を作ります。昨年は、役場とりんご温泉に門松を寄贈しました。「地区の人だや役場、りんご温泉の人だがら喜んでもらういくて、嬉しいごどだ」と話すのは成原アヤ子さん。

また、講師を招いての講話お年寄りの自叙伝の発表なども行っています。行事の初めにはどっこいしょ体操を取り入れたり、最後には行事や季節に関わる替え歌を作つてみんなで歌つて終わります。

七夕作りの後はカレーライスを食べたり、収穫祭ではうす餅、クリスマス・忘年会ではケーキを用意しますが、お年寄りだけで住んでいる人はそのようなものを食べる機会が少ないとということで、大変に喜ばれます。



特集○朝日町の元気印

元気の雰をちょっとぴりおすそ分け

担当広報委員 遠藤由美子 鈴木祐美 白田征治

作る人も、見る人も楽しいかかし作り



前田沢の国道沿いに『メツセージかかし』を立てて今年で五年目。帰省客の多いお盆に合わせて、7月下旬から8月上旬にかけて準備をします。スタッフで原案を考え、事前に二回ほど下準備をします。参加者の中には大工さんもおり、みんなが技術や知恵、材料を持ち寄って作ります。

「雨さ濡れつど、むつこさくてよ」と、かかしにビニールふろしきを掛けてくれる人がいたり、「あつつくて大変だな」と話をかけながら、かかしの周りを毎朝そうじしてくれる人もおり、愛着があり、自分の子どものようにかわいがっています。

かかしには『交通安全』『よっこ朝日町』などのプラカードを掲げます。アップル駅伝の時は『ガンバレ駅伝』、芸術文化祭の時は『芸術の秋』など、季節に応じて掲げます。町内に二回ほど下準備をします。

やりがいを感じながらスタッフも一緒に楽しむ

他のデイサービスや敬老会などの事業には行かなくても、いきいきクラブには参加するという人もいるほどで、一つの物をみんなの力で一生懸命作ることが生きがいにもなっているようです。参加者の一人熊谷みゑさんは、「毎回楽しみにして行つて。手伝つて準備してける人だがしええ人ばかりで、私だけも家の人都おんなじようにしてけつから感謝してんなよ」話してくれました。

スタッフの鈴木小夜子さんは、「私たちが休むと、みんなが心配してくれます。支えているようで、私たちも支えられています。私たちをみなさんが待つてくれていることを感じ、やりがい、はりあります」とのこと。お互

外の方々から、毎年楽しみにしているとの声をいただくなど、反響が大きいです。今年は『かみのやま温泉全国かかし祭』から出展の要請があり、見事上位二番目の『米寿賞』を受賞しました。いきいきクラブみんなで山上市まで見に行つてきました。

かかしには『交通安全』『よっこ朝日町』などのプラカードを掲げます。アップル駅伝の時は『ガンバレ駅伝』、芸術文化祭の時は『芸術の秋』など、季節に応じて掲げます。町内に二回ほど下準備をします。

スタッフのみさんに『元気な厚い信頼関係が築かれている』とあります。参加者が多く、会場の公民館の大広間が手狭になつてしまっているほか、大広間が二階にあるため、お年寄りが昇り降りするのに大変という悩みもありました。みなさんの素朴で心からのかかし作りが、とても素敵で印象的でした。

参加者が多く、会場の公民館の大広間が手狭になつてしまっているほか、大広間が二階にあるため、お年寄りが昇り降りするのに大変という悩みもありました。みなさんの素朴で心からのかかし作りが、とても素敵で印象的でした。

取材では、運営スタッフのみさん全員が集まつてくれました。みなさんの素朴で心からのかかし作りが、とても素敵で印象的でした。

また、参加者やスタッフあるいは区民の人々が、材料や道具など様々なものを持ち寄つたり、あらかじめ下準備をしてくる人もいるなど、みんなの協力で成り立つています。

更に、区長さんを始め区内の様々な職人さんや得手前な人、子ども会や若い人たちと



運営スタッフのみなさん



クワトロAを説明する齊藤知事

県内の各界各層の地域の人々と直接膝を交え県民の「生の声」を聞く出前知事室が10月17日、夏草区を会場に開催されました。齊藤弘山形県知事が公式に朝日

町を訪れるのはこれが初めて。去る9月4日に山形ブランドの確立をめざした試み「山形セレクション」の正式認定を受けた「ハレふじ（＝葉とらずふじ）」の生産者8人と意見を交換しました。

意見交換会では、山形セレクションの称号が付くことによる市場の反応や実際の効果、それを市場に広めるための手段やそれぞれの役割などについて意見が交されました。齊藤知事は

に、更なる品質の向上をめざしてもらいたい」と説明し、今回の試みに対し理解を求めました。

交換会を前に、町センターりんご組合の井澤壽一組合長（夏草）の樹園地を訪れた齊藤知事。「老木でも立派な実を付ける。手間暇かけて育てられているのがよく分かります。生産者の思ひが再確認できた感じがします」と語り、もぎたての真つ赤なりんごを笑顔で丸かじりしていました。

齊藤知事来町 出前知事室 10/17



齊藤知事と園地で話す井澤園主(右)

「一般的に企画力やPR力が不得手と言われる山形県。生産物にトリプルAを上回るクワトロAという山形独自の厳しい基準を設けることでその産物の価値を高め、県を挙げて山形県産ブランドを全国あるいは世界に売り込んでいくというのが今回取り組み。実際に20%増しの価格で取り引きされるようだ。クワトロAを広めるのは県の役割だが、その価値を高めていくのは生産者自身。これを突破口に、更なる品質の向上をめざしてもらいたい」と説明し、今回の試みに対し理解を求めました。

平成19年2月～

戸籍事務の電算化②



今回は電算化によって戸籍がどのように変わり、どのようなサービスを提供できるようになるのかについてお知らせします。

Q. 電算化により戸籍はどう変わりますか？

A. 現在の戸籍は縦書きで記載されていますが、電算化になると横書きで項目（出生や婚姻事項など）ごとに記載されるようになり、記録の内容が一目でわかるようになります。また証明は、「謄本」が「全部事項証明書」に、「抄本」が「一部事項証明書」に、呼び方が変わります。

Q. 証明書などの発行にかかる時間はどうなりますか？

A. 戸籍謄本や抄本を発行する時、現在は保管庫から戸籍簿を取り出し、それをコピーして発行していますが、電算化になればコンピュータから直

接発行するため、時間が大幅に短縮されます。特に相続のため歴代の戸籍（除籍）を必要とする場合、今までかなり時間がかかっていましたが、データを一括管理することにより、短時間で発行できるようになります。

Q. 現在使っている縦書きの戸籍は無くなるのですか？

A. 現在の縦書きの戸籍は「平成改製原戸籍」として残りますので、相続などで必要な場合はコンピュータで証明書を発行できます。

戸籍をコンピュータに登録するにあたり、誤字で記載されている氏名の文字については、正しい文字に変更することになります。その確認のため、住民のみなさんに文書や電話などで照会する場合があります。ご理解とご協力をお願いします。

問 税務町民課戸籍年金係 67-2119

※電算化により、証明の様式、内容がどのように変わらるのかを月号でお知らせします。



輝輩に庄かたししがざれした足跡、そしてその長い年月に、私は統合前の宮宿中学校第二十九回卒業生です。その一年後、宮宿中学校は三十年の歴史を閉じました。中学校三年の時、私は学校の図書館で歴代の学校又集をめぐりながら、その長い歴史の重みと時間の長さを思い出します。先づ各種大会で、その長い年月の間に、朝日中学校創立三十周年記念式典の日です。

三十年の歴史の重み

くとグト鳴る子を じ正くて
つひラのらのを目そつ面の培
またん音すを迎前れとか先わ
らむド。ボ待えにか耳ら輩れ
せき全ボーつに控らを見方た
るな体ル学え三傾上の伝
も青にル音草まにあ一た
の春湧を い校た十けげ思統。
ががき追ノッタ。まにある年こそがま
ありま私が部クし行なのとの宿た、
のる員をラ練タ年あ格木卒
した胸熱の打ケ習方。り、造業
を気掛ツガ、中ま有校し
激とけバト終わ体し様舍た
し汗声ツをわが連たにを多

そ直心工2んぜも夏をど
んな地ネ5でかな休そねも夕
な子よル4し涙くみ重ねた日
切どさギ人たの流明していを
なもに1の°つれけちの姿に懸命にボールを追う
くた変の若創またかに遠き日の自分の姿
もちわ発く遊る思たピアノの姿
激とり散館木の姿
し同充してガガノンの姿
いじこ満ひにての音に聞く
感時まがひに沸な音に聞く
情をまがひに沸な音に聞く
に送ま不たきりに、と
に包りこ思む立ま
またの議立ま
れい素ななつせなど

ました。當時は過ぎ行く。しかしそこには、
新幾多の学のたどなのは思ひでます。世界へ
出が宿り、そして巣立ち、新たな社会を築いてい
が、世の史舎は偉大にして勇壮なもので
一はす。學のたどなのは思ひでます。世界へ
多く歴びてます。史舎は偉大にして勇壮なもので
一人ひとりの先輩たちが築き上げてきました
が、そのスタートの時です。今
そして更なる三十年に向けて、今



されたのは、サクラやブナなどの広葉樹約500本。その他、子どもたちの手で町花であるヒメサユリの球根300個も植栽されました



佐藤賢一さんに農林水産大臣から感謝状

農業経営
統計調査の
調査員として、農林水
産統計情報
をこれまで
25年の長き
にわたり提
供し続けた佐藤賢一さん
(宿)に、農林水産大臣か
ら感謝状が贈られ、その伝
達式が11月7日、山形国際
ホテルで行われました。県
内では33人が受賞。中でも
佐藤さんは、最も長い期間
を務めての受賞です。

豊かな水産資源の根源は森林にある。その森林を保全育成しようと「海の幸を育む山に緑を」と銘打った植樹会が10月22日、豊龍の丘公園で開催されました。

小中学生や林業関係者、一般応募者など約200人が参加しました。



の生活環境の保全と公衆衛生の向上に貢献したとして、鈴木高雄さん（元町）がこのたび環境大臣表彰を受賞しました。通常業務の清掃業に加え、同業界等の組織づくりや関係団体の役員として務めてこられた功績が、認められたのです。

「海の幸を育む山に縁を」植樹会 10／22

環境大臣表彰受賞 鈴木高雄さん

の生活環境の保全と公衆衛

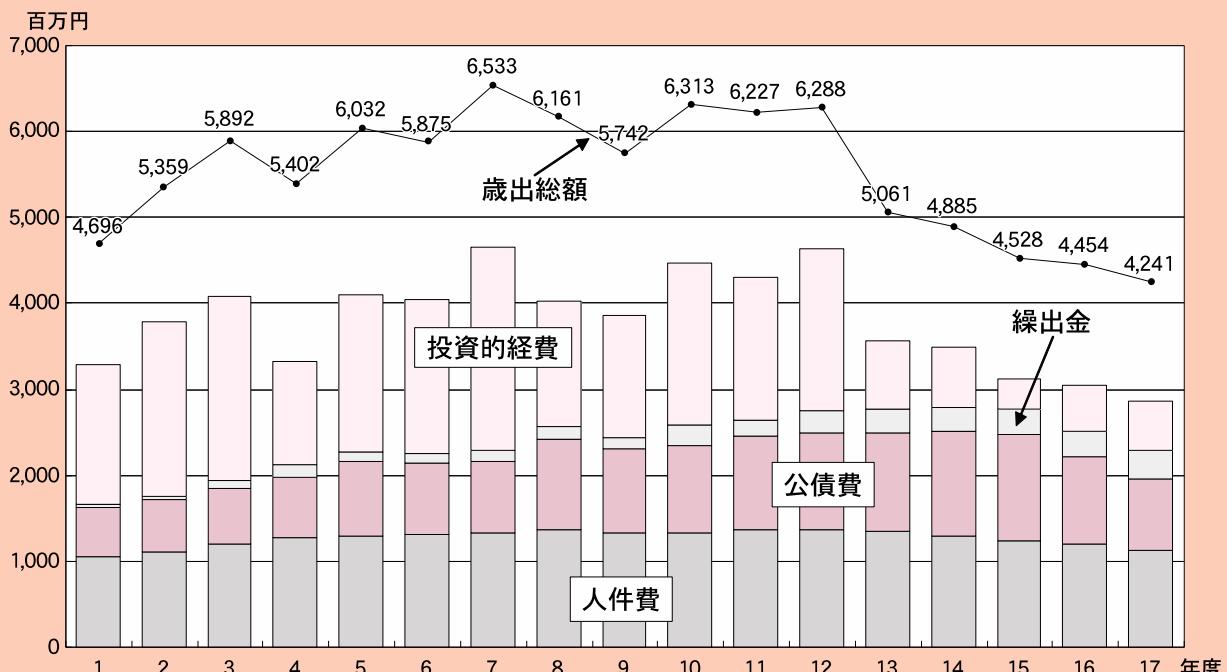
額44億5,010万円とする。

【原案可決】

- ③厚生労働省告示に伴う、町立病院・診療所使用料等条例の一部を改正する条例の制定について。
【原案可決】

④財産（朝日中スクールバス）の取得について。【原案可決】

朝日町の財政状況について お知らせします



(図1) 朝日町一般会計(歳出)の総額と性質別内訳の年度別推移

平成17年度決算が決まり、歳入・歳出ともに平成に入つてから最も小さい規模となりました。

今回は、これまでの決算状況と将来の財政負担の見通しから、町財政の現状と課題について考えます。

積極的な歳出削減で改善

町の財政状況

朝日町の財政は、平成2年バブル崩壊後の長引く景気低迷の影響による税収の伸び悩みと、国の三位一体の改革による地方交付税の削減等で、一般財源は大きく減少しています。

一方、歳出においては職員数の減、町債発行抑制に伴う公債費償還の減などにより、財政構造の弾力性を示す指標である経常収支比率が平成17年度で92・9%（西村山管内市町の中では二番目に良い値）で、前年度より3・9ポイント改善されました。この下落率は県内で一番ですが、まだ90%台と高い水準なので、引き続き人件費や公債費など経常経費の削減に努めていかなければなりません。

歳出の性質別内訳は（図1）のとおりです。

人件費は、職員数の削減や給料の引き下げ、諸手当の見直し等により平成11年度をピークに六年連続減少しています。

公債費は、朝日自然観整備、大谷

小学校や創遊館建設など、国の経済対策による投資的事業を積極的に展開してきた結果、償還額は年々増加しましたが、平成15年度をピークに二年連続減少しています。

その一方で、高齢化社会の進展に伴い、医療費や介護費関連経費が伸びており、特別会計への繰出金が増えています。



今後の財政負担状況（表1）

町債は、過疎対策事業などの財源として、将来における財政負担を考慮しながら活用してきました。一般会計の町債残高は、平成17年度末で58億1,800万円となつておなり、平



成元年度と比較して1・36倍に増加しています。町債残高のピークだった平成12年度は80億7700万円だったので、町債発行の抑制や繰上償還

の実施で22億5900万円減少したことになります。

億3700万円となっています。

財政指標を健全な水準に

各種指標の管内比較(表2)

(表1) 町全体の町債残高及び積立金の状況 (単位 百万円)

	町債残高 (17年度末)	うち交付税で 算入される額	交付税算入率	町税等で 償還する額	積立金残高 (17年度末)
一般会計	5,818	4,116	70.7%	1,702	637
病院事業会計	940	405	43.1%	535	
水道事業会計	346	8	2.3%	338	51
集落排水会計	41	20	47.2%	22	36
計	7,145	4,549	65.2%	2,596	723

(表2) 主な財政指標の近隣市町別比較

【一般会計】

	財政力 指数	順位	経常収支 比率	順位	実質公債費 比率	順位	町民一人当たり			
							町債残高 (千円)	順位	財政調整基金 積立金 (千円)	順位
朝日町	0.22	5	92.9	2	15.0	1	667	3	73	2
大江町	0.25	4	92.5	1	19.0	4	746	4	56	3
西川町	0.30	3	93.1	3	18.1	3	1,081	5	82	1
河北町	0.44	2	93.7	4	17.0	2	373	1	20	4
寒河江市	0.52	1	96.4	5	21.8	5	538	2	15	5

用語の解説

町債 町が資金調達のために負担する債務であり、その返済が一会计年度を超えて行われるもの。

公債費 町が借り入れた町債の元利償還金及び一時借入金利子の合計額。

財政構造の弾力性 財政的に健全性を保つつもり、町民ニーズに適切に対応しうる構造であるか否かを示す時の表現。対応しうる構造の場合は「弾力性に富む」、その反対の場合は「弾力性に乏しい」と表現する。

経常収支比率 人件費、扶助費、公債費などの経常的経費に、税収などの経常的一般財源の何%が充てられているかを示す指標。

財政調整基金 災害や急激な景気後退などの不測の支出や減収に備えるとともに、年度間における財源不均衡を調整するための積立金。

財政力指数 地方交付税法の規定により算定した基準財政収入額の基準財政需要額に占める割合の3ヵ年平均値。1に近い団体ほど普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるという意味。

実質公債費比率 標準的な財政規模に対する公債費（交付税措置分を除く）の割合に、公債費類似の経費（公営企業会計における元利償還金に対する一般会計からの繰出金等）を算定対象に追加している指標。18%以上で許可団体。25%以上で地域活性化事業等の単独事業に係る地方債等の発行が制限される。

は、返済期間となる後年度に、元利償還金の大半が国から的地方交付税で補てんされるため、実質町税等で償還しなければならないのは町債残高総額の約30%にあたる17億円程度となります。

また、財政調整基金の積立額は、平成17年度末で6

内市町の中では最も低い数値となっています。今後、この指標の改善を進めていかなければなりません。

経常収支比率は前記したように3・9ポイント減の92・9%。実質公債費比率は15・0%と、起債の許可団体となる基準の18%を大きく下回っています。おり、健全な水準と言えます。なお、西村山管内市町の中では最も良い数値であり、今後もこの水準を保つていかなければなりません。

町民一人当たりの町債残高は、66

このように、朝日町の財政状況は徐々に改善されてきています。

しかし、安全・安心で快適な生活環境の整備や、県内でもトップクラスの少子高齢化率に対応する施策の展開が急務となっています。そのためには、人件費の抑制や町民と行政との協働による施策など、行政改革をさらに進めていく必要があります。

今後進めるべき施策

とも減らしていかなければなりません。また、町民一人当たりの財政調整基金積立額は7万3000円と、西川町に次いで多く積み立てしていることになります。

このように、朝日町の財政状況は徐々に改善されてきています。

しかし、安全・安心で快適な生活環境の整備や、県内でもトップクラスの少子高齢化率に対応する施策の展開が急務となっています。そのためには、人件費の抑制や町民と行政との協働による施策など、行政改革をさらに進めていく必要があります。



わきあがる心のいざみ 感動のとき

第42回朝日町芸術文化祭

第42回朝日町芸術文化祭が11月3日から二日間の日程で、創遊館、西部公民館、秋葉山交遊館、和合公民館を会場に開催されました。開会式の中で朝日町芸術文化協議会の安藤直良会長が、「町の芸術文化も年を追うごとに向上している。成果を披露する人も鑑賞する人も、今日は一日文化人になつてほしい」とあいさつ。

また、あさひ芸術文化賞功労賞を池坊教授者研究会（華道）の佐藤洋子さん（宿）、同奨励賞を朝日吟道愛好会の小関政巳さん（新宿）がそれぞれ受賞し、安藤会長から賞状と記念の楯が授与されました。

日頃の活動の成果を発表しあう芸文協主催最大のイベント。多くの町民が各会場を訪れ、文化の秋を堪能していました。

淡交会（登坂宗邦社中）によるお茶会（創遊館和室）



和合公民館での移動芸能発表会の模様



あめっかぜによるどっこいしょ体操の披露





志藤六郎村おこし基金で今年度購入した武田軍と同じ赤の甲冑を着用 森重流砲術伝承会による迫力ある演武（創遊館裏芝生広場）



今年8月に結成30周年記念発表会を開催した朝日吟道愛好会による詩吟





ワイン城で模擬結婚式
(10月22日／ワイン城)

まちの話題



秋のさわやかマラソン記録会
(11月2日／大谷小学校)

①彫刻家西雅秋氏個展オープニングイベント(10月29日／あたりえマサト)

大地にめり込む鋳鉄 瞬間的芸術作品に歓声

秋晴れとなったあたりえマサト（旧立木小学校）のグランドに10月29日、大きなクレーンのアームが青空に届けとばかりに延ばされ、その高さは23メートルに達しました。「いったい何が始まるのか？」地区民や東北芸術工科大学の学生たち約100人が詰めかけたのは、同所で開催される現代彫刻家西雅秋氏の個展のオープニングイベント「CASTING IRON ASAHI MACHI '06—鉄と落下」です。

2003年に福井県の金津市で水田に落とされ、今まで埋まっていた重さ5トンもある鋳鉄。トラックで運ばれこの日の朝、立木に到着しました。この鉄の塊をクレーンで持ち上げて落下させるというも

の。20年前に1回目が落とされ、当町での開催が4回目。次期の開催が決定するまで、このままの状態にしておくとのことです。

吊り上げから鉄の塊が落下して大地に突き刺さるまで約5分間の様子を、会場にいるみんなが共有し体感できるようにと制作された、落下時はまさに瞬間的な芸術作品。

西氏による解説の後、フックが外され圧倒的な重量感をもった鉄の塊がスーと落下。ドシン！という衝撃でグランドにめり込んだその瞬間、「オッ！」という叫びと歓声が上がりました。

また、西氏が在中してのオープニングスタジオも開催。個展は11月27日まで、同所で開催されています。



②りんごの樹オーナー制度 収穫祈願祭(10月22日／園地及び秋葉山交遊館)



収穫間近の作業で家族団らん

今年で10回目となるりんごの樹オーナー制度。オーナーらが参加しての収穫祈願祭が10月22日、秋晴れに恵まれた秋葉山交遊館で開催されました。

今年のオーナー登録者は56人で、そのうち38人

とその家族など合わせて120人が参加。午前中に各園地に分かれて玉回し作業などを実施した後、交遊館に場所を移してバーベキューパーティーが行われました。

地元産ワインやりんごジュース、収穫を祈願する杵つき餅など、朝日町の秋の味覚を心ゆくまで楽しんだほか、りんごの皮むき競争などに終始笑顔の絶えない参加者たち。「花摘み、葉摘み、収穫など自分で手をかける一連の作業にとても充実したものを感じている」「朝日のりんごはおいしいから、親戚や友だちに贈っちゃうと手元に残るりんごはわずかになっちゃうんだよね」と苦笑いの参加者もいました。



③朝日柳香会チャリティー舞踊会「秋に舞う」(11月4日／創遊館)



若柳由美香先生



人間国宝の鶴賀若狭掾先生（中央）



若柳由美代さん

が11月4日、創遊館ホールで開催されました。平成12年の創遊館オープンを記念しての第1回公演から6年。今回が2回目の公演となります。由美代さんの師匠である直派若柳流常任理事若柳由美香先生（長沼出身）が、3年前に山形市民文化賞、一昨年は朝日町芸術文化振興感謝状、そして昨年、山形県教育功労者賞を受賞したのを記念しての公演にもなりました。

開演を前にし会場には、由美代社中の知名度を象徴するかのような長蛇の列ができあがり、開場とともに場内は超満員に。由美代さんの『青海波』に始まり同社中ら総勢30人が20演目を披露。観客たちは古典舞踊の美しさに惹かれていきました。

また、この舞台をいっそう盛り立てたのが、新内節淨瑠璃の第一人者で人間国宝の鶴賀若狭掾先生の特別出演。「ふるさとの朝日町へ感謝の意を込めて…」という由美香先生の計らいで実現したことです。淨瑠璃に合わせて由美香先生が演じた『唐人のお吉』には、ひときわ大きな拍手が送られていました。最後は、若狭掾先生による独特的の三本締めで締めくくられ、観客の興奮も冷め止まぬまま、大盛況の内に舞台の幕が下ろされました。

また、福祉施策に役立ててほしいと由美香先生から特別に10万円と、今回の収益金の一部として朝日柳香会から5万円が、寄付金として当日の舞台上で鈴木町長に手渡されました。

古典舞踊の美しさに惹かれる

日本舞踊の直派若柳流若柳由美代さんが会主を務める朝日柳香会チャリティー舞踊会「秋に舞う」

④りんご囃子5周年記念発表会(10月22日／創遊館)



民舞と民謡の共演にひたる

「日本一の朝日町のりんごを全国津々浦々の人たちに知ってもらいたい！」そんな会員たちの願いから、鶴見紅富士さん振り付け、鶴見さんが会主を務める民舞鶴見会作詞、今泉侃惇さん（長井市）作曲の『りんご囃子』が初めて公開され、今年で5年目を迎えます。それを記念する民舞鶴見会の発表会が10月22日、満席となった創遊館で開催されました。

鶴見さんの祝いの舞『鶴亀』で幕を開け、11人の会員たちが2時間の舞台で全17曲を披露。今泉さんや町芸術文化協議会長の安藤秀岳さんらによる民謡も、殊の外会場を盛り立てました。

最後を締めくくったのはやはり『りんご囃子』。終幕を惜しむかのように、会場には観客たちの手拍子が鳴り響いていました。



⑥健康いきいき料理教室 (10月14日／開発センター)



高齢期の栄養について学ぶ

高齢者ための健康いきいき料理教室が10月14日、開発センターで開催されました。生活習慣病の予防と健康づくりの正しい知識の普及啓発をめざし、寒河江地区栄養士会（成原千枝会長）が高齢者あるいは親子を対象にした料理教室を西村山管内において毎年実施しているもの。今回は、宮宿地区内の老人クラブから19人が参加し、高齢期の栄養について楽しく学びました。

栄養に関する講話の後、割烹着姿になりさっそく実習に。秋野菜や栗といった旬の素材を使い、栄養バランスを考えた牛肉ちらし寿司や栗ようかんなど3品を完成させました。参加者たちは「とてもおいしくできあがった。今度孫にも作ってあげたい」と語り、大好評の様子でした。

⑤国際ＲＣ研究グループ交換会 (10月23～26日／西村山管内)



インドと朝日町の国際交流

国際ロータリー第2800地区（山形）と同3080地区（インド共和国の首都ニューデリー北部）の両地区による研究グループ交換プログラムが、10月23日から26日まで4日間の日程で西村山管内を会場に開催されました。5人で構成されたメンバーが当町を訪問したのは3日目の25日。秋真っ盛りの時期で活気のあるワイン城や果樹選果場、りんご園などを視察しました。

菅井善雄さん（沼向）のりんご園を訪れた一行。真っ赤に実ったりんごに目を丸くしながら「インドにもりんごはあるが寒暖の差があまりないのでこのように蜜は入らない。甘くてとてもおいしいです」と語り、もぎたてのりんごを食べていました。



⑦製薬会社の社員が農作業を体験(11月1日／和合平りんご園)



リンゴが実る光景に心を癒す

大阪市に本社を置く製薬会社の社員88人が11月1日当町を訪れ、収穫間近のりんご園で農作業を体験しました。全国で事業を展開する同社の従業員約3,000人が全国40カ所の棚田のある農村に出向き、地域の声に応じた農作業・山仕事・環境整

備作業などを行う「地域社会貢献事業」を今回初めて実施したもの。晴天に恵まれたこの日、たわわに実をつけた真っ赤なりんごに胸を躍らせ、10人の園地に分かれて、収穫、玉回し、反射シートの撤去といった作業に汗を流しました。

昼には、棚田ママの会（伊藤しづ子会長）が作ってくれた棚田の新米を使った炊きたてのおにぎりと山形の秋の味覚芋煮を口にした社員たち。「本来のお米の味ってこんなだったんですね！」。

白田藤雄さんの園地で作業した藤間季也さん（仙台市）と相澤敏子さん（同）は、「りんご畑に入ったのは初めて！今日は私たちが作業のほんの一部分をお手伝いいただけですが、こんなに広い畑を常に少人数で切り盛りしている農家の人のすごさ」と感心していたほか、「真っ青な空に真っ赤なりんごと緑の色が映えてとてもきれい。心が癒された」と感想を語ってくれました。

⑧ハロウィンパーティー(11月4日／開発センター)



色々なゲームで楽しいひととき

ハロウィンパーティーが11月4日、開発センターホールで開催されました。キリスト教の祝い日の一つで、全ての聖人と殉教者を記念する日（日本では「万聖節」とも言われる）の前夜（10月31日）に行われる英語圏では伝統的なこの行事。広報あさひまちの「英語にチャレンジ」でおなじみ、町のALT（外国语指導助手）を務めるトリニティ先生ご夫妻と、田舎でふるさと交流会（鈴木高光代表）が中心となって主催したもので、昨年に引き続く2回目の開催となりました。

楽しかった昨年の様子を聞きつけてか今年は参加者が急増。思い思いの衣装を身にまとった子どもたちなど約200人が会場に詰めかけ、会場いっぱいに設けられた色々なゲームやお菓子などを味わいながら楽しいひとときを過ごしました。

佐藤百恵ちゃん（新宿）は「釣りのゲームが一番楽しかった」と笑顔で話してくれました。

⑩交歓交流プチ駅伝大会 (11月5日／豊龍の丘公園)

豊龍の丘になびくタスキ

町ジュニアマラソンクラブと西川ジュニアランナーズとの交歓交流プチ駅伝競走大会が11月5日、豊龍の丘公園で開催されました。互いに交流を深め合い、走ることの楽しみを再確認する目的で実施しているもので、今回が6回目となります。

1周1.1キロの園路を周回するコースに、保護者のチームを含めて両町から6チーム、30人が参加し、レースが行われました。

その結果、男子の部では布施雅也君（栄町）が、女子の部では阿部愛美さん（常盤）がそれぞれ最高タイムで走り抜きました。



⑨防犯ブザー贈呈式 (10月18日／大谷小学校)

全児童がランドセルなどに装着

第17代会長の庄田文夫さん（真中）が代表を務める大谷小PTA三役経験者有志26人（現役を含む）が、同校の全児童108人に防犯ブザーを贈りました。その贈呈式が10月18日同校で開催され、第18代会長の佐藤伸寛さん（大谷四）と母親委員長を兼務する元副会長の五十嵐利生子さん（舟渡）の両名から、児童を代表し2年の渡辺晃人君と3年の濱田稜十君に直接手渡されました。「以前、下校途中に黒い車から追いかかけられたことがある。これからはこれが使えるので安心です」とお礼の言葉を述べた渡辺君と濱田君。

ランドセルなどに装着された防犯ブザー。児童を犯罪から守るために、今日も厳しく目を光させています。





みんなの
ひろば

■歴代の広報委員長

広報委員会発足当時から

- 昭和30年4月～ 阿部高美さん(9年)
- 昭和39年4月～ 多田 積さん(5年)
- 昭和44年4月～ 菅井 雅さん(3年)

民間広報委員導入から

- 昭和47年4月～ 多田秀雄さん(14年)
- 昭和61年4月～ 鈴木久夫さん(10年)
- 平成8年4月～ 安藤茂雄さん(6年)
- 平成14年4月～ 志藤靖則さん(4年)
- 平成18年4月～ 清野則昭さん(至現在)

一昨年が町制施行50周年で
あったので、ほぼ朝日町の發
足時からの広報紙として、受
け継がれ親しまれてきたもの
と言えるでしょう。まずは、

大きな節目にお喜びを申しあ
げます。

私が広報委員長に選任され
たのは、昭和47年4月だった
と記憶します。それまでは、

総務課の職員が、専

門に業務を担当。そ
れまで、行政側から
都合のいいところばかり
になりやすいとい
う批判がありまし
た。結局、民間人6

人を中心には委員長は
互選し、行政トップ
の干渉を受けないこ
とを条件に、新体制
がスタートしました。

さて、世はまさに情報化社
会として国境のない世界に踏
み入る、国内的には、競争原
理の横行や地方分権の推進・
増税などとめまぐるしい限り
の一方的な広報は、
過疎・減反・朝日分校存続な
どをめぐる問題や取材が強く
記憶に残っています。

です。

大切なことは何か、何から
始めるべきかなどの深い洞察

を深め、競争原
理の横行や地方分権の推進・
増税などとめまぐるしい限り
の一方的な広報は、
過疎・減反・朝日分校存続な
どをめぐる問題や取材が強く
記憶に残っています。

広報あさひまち600号に寄せる

民間選出初の広報委員長

多田秀雄さん(本町)

不遍不党・町民の町政・自主
自治・広報広聴などをめざし
たことは言うまでもありません。

「地域づくりはロマンだ」
の岩手県の田野畠町(当時)
など、当時からユニークで先
見性のある住民主体の町、地
域づくりを進める先進自治体

の広報活動への研修視察など
も継続しました。

▽個人の部【中学男子】③
菅井拓人【中学女子】①近
藤香澄10分23秒《大会新》
③川口愛祐美

▽団体の部①朝日中女子
(近藤香澄・川口愛祐美・
若月未来)33分03秒《大会
新》②朝日中男子(菅井拓
人・菊地真史・鈴木聖也)

■中体連県新人南ブロック
大会【10月21日】
②剣道男子団体②剣道女子
団体
■第53回西村山地区駅伝競
走大会【10月22日／創遊館】

各種大会の成績

(○内数字は順位)

■第41回西村山地区秋季ロードレース大会兼第23回山形

県女子駅伝競走大会「寒河江市市

民体育館周辺／参加者16

6人】

寒河江市市民体育館／参加チー
ム数7／8区間63・7km】

②朝日(白田誠・菅井拓人・
白石雄一・海野裕明・後藤
輝一・志藤陽平・長岡輝喜・
鈴木智彦)

■第35回町民バーレーボール
大会【11月5日／町民体育

館／参加チーム数9／参加
者96人】

▽男子の部①朝日クラブ
(阿部真樹監督)②ベスト
フレンズ(鈴木隆志監督)
③NISHIKAWA Pirates(菅野

千秋監督)

▽女子の部①ぐらうりい
(伊藤弘美監督)②朝日中
バレーパー部3年(清野正弘監
督)③アッブルワンズ(深

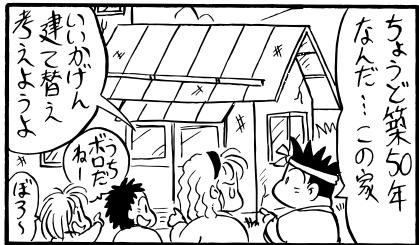
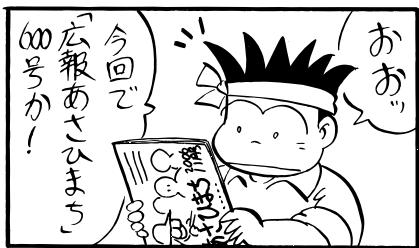
沢小百合監督)



徹底した情報公開と、町民
と行政による協働の町づくり
に向か、町民の元気の発見發
信など広報広聴活動の更なる
活躍を期待してやみません。

となりのトトロさん

作・ホリイ (188)



松程/布施哲也 明さんさん

新嫁さん

倒れるように押してます

倒れないように支えてます

スキーを通じて知り合い、その後、何回か電話をしたり映画を観たりしているうちに、自然と意識しあうようになったというお二人。お互いアウトドア派で、スキーや釣りなどをしてデートを重ねたそうです。そして、2年間の交際を経て先月めでたくゴールインしました。

披露宴では、千明さんのお父さんがオーナーとなったワインで乾杯。お父さんと哲也さんが乾杯する場面では、互いに3杯をいっき飲みしたとか。「娘を頼む!」という父親の熱い思いがあったのではないかでしょうか。

新婚旅行はイタリアに行ったそうです。英語が堪能な千明さんは通訳担当、身長も高く体の大きい哲也さんは千明さんを護衛するボディーガード担当だったと、笑顔で話してくれました。

子どもは2~3人欲しいという千明さんの側で、最初は女の子がいいと話す哲也さん。哲也さんは男3人兄弟で母親が大変苦労したのを知っているため、千明さんとのことを気遣う優しさが表れています。「明るく楽しい家庭を築きたい」と話すお二人は、本当に仲が良くなっています。

その他の新刊

- ▼天下布武 上・下 (安倍龍太郎) ▼中原の虹1 (浅田次郎) ▼牡丹酒 (山本一力)
- ▼桜ハウス (藤堂志津子) ▼殺人の四重奏 (藤本ひとみ) ▼水銀虫 (朱川漸人)
- ▼風が強く吹いている (三浦しをん) ▼銀天公社の偽月 (椎名誠) ▼四度目の氷河期 (荻原浩) ▼息がとまるほど (唯川恵) ▼ヘブンリー・ブルー (村山由佳) ▼鴨川ホルモー (万城目学) ▼あなたに逢えてよかった (新堂冬樹) ▼ハズキさんのこと (川上弘美)
- ▼雪猫 (高橋義夫) ▼六地蔵河原の決闘 (佐藤雅美) ほか

声優時代を中心とした大山のぶ代の自伝。ドラえもんとの運命の出会いから、テレビ

ぼく、ドラえもんでした。
大山のぶ代著

新作。
録。慶次郎シリーズ第10弾最

追いすれば火傷する。わかつてはいたが……。非情でならず蝮にも宿る恋心。胸を打ち、心搖さぶる大江戸の情を描く。

「みんな偽物」ほか全8編収
重な写真満載の「大山のぶ代グラフティ」も収録。

ほたる慶次郎縁側日記
北原亜似子著

第135回 直木賞受賞
まほろ駅前多田便利軒
三浦しをん著

あの面影、消えぬ未練。深い追いすれば火傷する。わかつてはいたが……。非情でならず蝮にも宿る恋心。胸を打ち、心搖さぶる大江戸の情を描く。

「みんな偽物」ほか全8編収
重な写真満載の「大山のぶ代グラフティ」も収録。

今月話題の本

町立図書館おすすめ

郷土出版コーナー
君酔いまたも征くなかれ
阿部宗一郎著

阿部康子著

詩集 松葉ばたん
阿部康子著



町民の声

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。

町に対する意見や要望、提案みなさん周りでの出来事や話題、日頃感じていること、イラスト、質問などお待ちしています。

- あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場 政策推進課 地域情報係
(電話：67-2112 ファックス：67-2117)
- Eメール／inform@town.asahi.yamagata.jp
- URL／http://www.town.asahi.yamagata.jp
- 携帯サイト／http://www.town.asahi.yamagata.jp/keitai



いよいよ始まった光ケーブルの敷設工事

問 光ファイバーの加入申込
答 広報あさひまちの先月号に、光ファイバーへの加入申し込みについて載っていましたが、どこへ申し込めばよいのかなど、詳しく教えてください。
【匿名】

今回、町が整備している光ファイバー網は、インターネット等へ活用するため、町から通信事業者に貸し出すことになつていましたが、このたびサービスを提供する通信事業者がNTT東日本に決定したところです。

そこで、インターネット等

申し込みについて載っていましたが、どこへ申し込めばよいのかなど、詳しく教えてください。

問い合わせる

インターネットサービスは、NTT東日本のBフレッツに決定！

の申込先は、町ではなくサービス提供事業者であるNTTとなりますのでご承知ください。NTTでは11月14日から実質募集をスタートさせており、みんなの自宅にも案内が届いているのではないでしょか（**申問**0120-940-202）。また、11月18日・19日の両日、産業まつりの会場で、光インターネット等の体験コーナーを設置しますので、ぜひ体験してみてください。更に、体験コーナーは開発センターでも行うことになつております。その際はインターネット講習会等も定期的に開催する予定です。

なお、パソコンやインターネットに関することなど、情報化について不明な点・質問や疑問がございましたら、のところまで気軽にご連絡ください。

お詫びと訂正

広報あさひまち10月号(No.599)の中に、次のような誤りがありました。お詫びし訂正いたします。

16頁「祝 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)出場」

【訂正前】ケイリン競技 菅井 宏之 選手

↓

【訂正後】ケイリン競技 菅井 寛之 選手

16頁「今輝いて（2段目7行）」

【訂正前】安部里衣さん（松程）

↓

【訂正後】阿部里衣子さん（松程）

19頁「全国に紹介 朝日町」

【訂正前】その模様が10月21日の午後4時から…

↓

【訂正後】その模様が10月21日の午後1時から…



亀と同じ形のコンニャク芋？半信半疑でふたば保育園を訪ねてみたところ、「これぞまさしく亀」というコンニャク芋が迎えてくれました。鈴木カチノさん（西船渡）からいただいた種芋を5月に植え10月26日に収穫。水洗いし乾燥させている際に園児たちが発見した珍しい形のコンニャク芋です。取材におじゃましたのはちょうど給食の時間帯。「いっぱいカメカメ」と語りかけている「かめどん」でした。





平成18年(2006年)
■10月1日～10月31日届出



すこやかに

区名 出生児氏名 性別 保護者名

宇津野 渡邊ひな 女 浩司・ゆず
新宿 阿部佑太 男 光春・けえ子



おしあわせに

布施哲也		成原千明
(松程)		(前田沢)
海野康典		尾形美恵子
(助ノ巻)		(西川町)
峯田猛		浅野葉子
(西原)		(天童市)
浅岡裕勝		鈴木千春
(緑町)		(大江町)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
西町	若月清藏	俊秀
前田沢	鈴木みん	春雄
沼向	菅井貞夫	均
本町	鈴木俊司	修一
小原	鈴木万作	政美

掲載を希望しない方は、届け出の際にお申し付けください。

人口と世帯数

●平成18年10月31日現在

人口 8,649人(減10人)
男 4,281人(減6人)
女 4,368人(減4人)
世帯数 2,549戸(増減なし)
()内 前月比

きょうの健康 あしたの健康

防ごう！高齢者虐待 ～虐待の発見者には通報義務があります～

平成18年4月1日より「高齢者虐待防止・養護支援法」が施行されました。この法律は、高齢者が尊厳を保ち生きていけるように、虐待の防止と保護のための措置、また、高齢者を支える養護者の負担の軽減を図るために策定されたものです。

このようなことが虐待になります

- ◇身体的虐待→たたく、つねる、殴る、蹴るなど
- ◇介護・世話の放棄・放任→空腹、脱水、栄養失調の状態にするなど
- ◇心理的虐待→子ども扱いする、怒鳴る、ののしる、悪口を言うなど
- その他に、性的、経済的虐待があります。

高齢者の虐待に気付いたら

虐待に気付いた人は通報する義務があります。虐待を止めることは、虐待をしている養護者のためにも必要なことです。



早期発見・早期報告で虐待を防ぎましょう

早期に発見し第三者が介入することで、虐待の深刻化を防ぐことができます。虐待に気付いた時は、一人で抱え込んだり悩んだりせず、相談機関（地域包括支援センター＝健康福祉課内）などに相談してください。

介護は一人で抱え込まないで！

高齢者の虐待は、社会的なサービスを効果的に活用するなど、養護者の負担を軽くすることで防げます。



また、認知症の高齢者については、専門家のアドバイスにより適切な対応を取ることで状態を変えられることもできます。無理せずサービスや制度を利用し、介護していきましょう。

問 地域包括支援センター（健康福祉課内）

☎ 67-2156 (直通)

表紙でも紹介した、わかつ保育園での里芋ほりと芋煮会の模様が、11月20日の午後1時頃から日本テレビ系列（YBC【山形放送】）の番組「おもいつきりテレビ」の中で放映されます。
“畠のパパあちゃん”こと白田たまよさん（大谷二）と園児たちとの心あたたまる交流の様子を、どうぞご覧ください。



全国に紹介 朝日町

朝日町フォトコンテスト

この町には「自然」「歴史・文化」「人」など、ふるさとを感じさせる宝物のような風景が数多く残っています。昭和29年11月に合併し一昨年50周年を迎えた朝日町。これを記念し「今残したいふるさとの宝」をテーマに募集したものの中から、選りすぐりの作品を紹介します。

佳 作 「いねかり」



とにかくカメラが好きで、ジャンルを問わず様々な被写体を二十歳の頃から撮り続けています。ようやく子どもも3歳（当時）になり、田んぼのお手伝い？ができるようになった頃。しかし、おじいちゃんとあばあちゃんにとっては、これまで生活の糧、心の糧として長く働いてきたこの場所を、別の人任せなければならなくなってしまった時。つまり、この時が最後の稻刈り作業となりました。お疲れ様という思い、そして記念になればと撮影した1枚です。

朝日町は自然に恵まれ、とても環境のいいところ。これからも、身近な風景などをたくさん撮っていきたいと思います。 撮影者 鈴木耐子さん（西船渡）

撮影者 鈴木耐子さん(西船渡)

春夏秋冬

編集後記

員で仕上げた内容です。いかがでしたか。

▽歴代の広報委員長を調べるため、広報紙の縮刷版を見ていたら、小学生当時の私たちの写真が掲載されている頁を見つけました。冬の季節の写真で毛糸の帽子と手袋、防寒具を身にまといっていました。不思議なことに、それらの当時の感触がよみがえってくるんです。当時のことをそんなにまで鮮明に思い出させてくれる広報紙の魅力。そんな広報紙の600号を編集できたこと、嬉しく思います。

▽町の広報広聴を担当して早3年と8ヶ月。2003年4月（第557号）からのスタートでした。確かに「600号まで近いな：」とは思ったものの、節目となるこの号をまさか自分が担当することになろうとは：。

▽今回の特大号。特集はこれから町づくりのキーマンともなりうる「朝日町の元気印」3団体2個人を紹介する内容。その元気の筆を少しでもみなさんにおすそ分けできたら：と言うことで、執筆から写真撮影、レイアウトまで、17人の広報委員全